



森ボラ 通信

第60号 2007年5月20日発行
NPO法人 北海道森林ボランティア協会
札幌市中央区南2条西2丁目金市館ビル8F
Tel:241-8155 Fax:241-8308
E-mail:h-shinrin-v@indigo.plala.or.jp
URL:<http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

■ トピックス

◆ 有明初日

5月16日(水)。参加11名。有明第二都市環境林の本年度初日は好天に恵まれ、快適な作業日でした。主に植林地の手入れをしました。植えたものの他に天然に芽生えたものもかなりあり、順調に更新しているようです。植えたものの中で最も成長の良いのはケヤマハンノキで、樹高2.5mほどにも伸びておりました。この高さになると下刈りはいらなくなります。次いでヤチダモが1m程度、その他はまだ1mに達していません。

巣箱の掃除と修理を併行しておこないました。3年間ほったらかしだったので、殆どが鳥、蜂、リス等に使用されていました。点検して架け替えたものは黄色のテープ番号743~759をつけてあります。これらのテープのない巣箱をみつけましたら、高野までお報せください。

タケノコはまだ日当たりの良い部分に少し出ている程度です。あと1週間後あたりが良いかと思えます。



◆ 野幌国有林での初作業

北海道森林ボランティア協会が野幌国有林で、平成17年秋と18年春に地拵・植栽した箇所(平成16年の台風被害跡地)が、1.87ha(トドマツ、広葉樹各900本植栽)あります。5月10日(木)にここで今年最初の作業を行いました。

作業は、雪で押されて傾いた植栽木の補正、下草刈時の誤刈を防ぐために植栽木の横に立ててある竹の補正、昨年秋に補植したトドマツの再補植や天然更新した広葉樹が下草刈時に刈られることを防ぐための天然更新広葉樹への赤テープによる標識付けなどでした。

お天気に恵まれ、道路脇のエゾヤマザクラは満開、福寿草は咲き終わっていましたが、二輪草、エゾエンゴサク、スマレなどの春の花が目を楽しませてくれました。

午後の作業終了後、フキ、コゴミなどの山菜の採取が出来ましたが、タラノメは既に採取されており、残念ながらほとんどありませんでした。野幌の今後の作業は、6月中~下旬、7月中~下旬にそれぞれ2日間の下草刈が予定されています。(棟方)

◆ 澄川の巣箱3

前月号で前年までの巣箱の利用状況を報告しました。今年は家主を確認したくて観察を強化しました。5月12日現在でシジュウガラ、ヤマガラ、ニューナイスズメの3種類の4個の家主を確認しました。これらの鳥達は巣づくりから巣立ちまでだったの1ヶ月ほどしかかかりません。146個(ピンク



No.33~178)を車道西側および林内作業道沿いにかけてありますので、これからの作業時に出入を確認できた巣箱の番号を高野までお報せください。

今年は点検・修理を雪の振る前にやり、1年間利用状況のデータをとりたいと思います。(高野)



◆ 木道日記10.

2007年5月1日 冬を乗り越えて

今シーズンから森ボラの保全活動を積雪期もやろうと決まり2007年1月17日から除伐作業が続きました。以前から活動日は天候に恵まれるのですが冬季活動でも中止はたしか2回だけでした。駐車場をまず手作業で除雪するのですが、なれた仕事とはいえこれでエネルギーは半分消耗します。除雪機を使わないのは化石燃料はなるべく使わない会の方針とともに会員にとってはメタボリック症候群解消のいい運動となりました。

カンジキの人、スノーシューの人、つぼ足の人も機材をかつぎながら木道を渡って除伐地に向かいます。女性会員で木道の上にこんもり盛り上がった雪から足を滑らして落ちた人もいましたが、怪我するほどの高さでもなく愛嬌でした。そして自分達の手で作った木道を片目で眺めながらの豚汁は身も心もあたたまりました。

この写真は木道 No3 です。

そして3月も半ばになると童心に帰っての硬雪渡りで、除伐、倒木処理、巻き枯らし、カエデと白樺樹液採取、ホダ木作りと作業は順調に続きました。そして5月1日にはNo3 木道のすぐ上流でシイタケの植菌でした。発電機とドリル2台で160本のホダ木ができあがり寒冷紗でホダ蒸しし札幌祭り明けには仮伏せとなります。

テレビ情報として、話しながら作業すると口の周りの筋肉が強くなり肺炎にかかりにくいそうです。体力No1の山中さんでさえ肺炎にかかったので全員その話に耳を傾けながら木植で駒菌を打ち込みました。

澄川環境緑林での今年のミズバショウの満開は5月1日でした。この写真で、木道架設の目的の一つのミズバショウ保護は証明できました。この貴重な湿地を歩かずにすみませす。もう一つの目標はホタル保護で、7月末にこの木道の上を乱舞するホタルの光を写真に収めたいものです。この木道の下にはホウノキの落ち葉がたまっておりまもなくカワニナが食べはじめははずです。

この木道は冬を乗り越えてしっかりしていました。十分支柱を打ち込んだので冬季の沈み込みや倒れはありませんでした。中程に揺れる部分あり機会を見て支柱追加したい。

5月8日にはNo1, No2 木道の天板を元に戻し焼いて防腐処理したい。また前後の遊歩道の整備、ササ刈りなど山仕事は限りなく続きます。(酒井) (木道日記1~9は当協会ウェブサイトのアーカイブスをご覧ください。)



5月17日のサクラの植樹の取材記事が道新18日の朝刊に載りました。これを見た読者から植樹協力依頼を受けました。



5月3日に確認されたクジャクチョウ

■ 今月の幹事会

出席者：荻田、酒井、杉本(茂)、高野(豊)、津金、西野(悌)、棟方、山中、和田、西野、村上

1. 5月・6月の作業スケジュール確認

- ・5月20日(日)セブン・復興の森支笏湖作業は中止となりました。
参加予定者には電話にて中止連絡をする。
- ・6月23日(土)二青会植樹会(家族参加型)を澄川の森で実施します。
- ・作業参加者集合場所(変更と確認)を5月・6月作業申込書裏面に地図を掲載しました。公共交通機関利用者は再確認して下さい。
⇒ りんご園参加者はSUB琴似駅(従前通りの静和病院駐車場で待機します)。
⇒ 澄川の森・藻岩国有林、参加者はSUB自衛隊前(6月作業分から変更します。平岸街道、真駒内側)。
- ・藻岩国有林は急ぐ作業が無い為変更しています、作業内容をご確認下さい。
- ・5月1日(火)、支笏湖根踏み作業を実施しました。100本ほどの枯れ(10%)が確認されましたが、順調に育成が確認されました。

2. ① 助成金交付決定

日本財団からの助成金交付が決定、活動準備に入ります。

事業名：外来種ニセアカシア撲滅の一環事業。

事業期間：2007. 4. 1～2008. 3. 31

完了時には、成果物(成果物の写真)とともに助成金に関する収支報告書及び領収書コピーを添付した完了報告書を提出する事になります。事業の記録・イベント情報・内容収録 ⇒ (担当：酒井)

- ② 北海道新聞社、道新千本桜運動の苗木がもらえることになりました。急遽、澄川に植樹を完了しました。

4. 5月の進捗確認

- ① しいたけ栽培：植菌作業がまだ若干残っています、作業参加をお願いします(酒井)。
- ② 巨木調査：予備調査が終了、再確認してまとめに入ります(棟方・和田)。
- ③ 澄川森林生態調査：巣箱の調査・修理を終え、この春の巣作りが始まっています。季節に合わせて順次項目を広げます(高野・佐野)。

■ おしらせ

◆5周年記念旅行 (〆切、5月25日、幹事まで要連絡)

◆5月・6月の作業が変更になっています、ご確認下さい。

◆セブン・イレブン支笏湖植樹、5月20日(日)は中止となりました。

◆4月23日リンケージプラザにて平成18年度総会が実施され、事業報告・決算、平成19年度事業計画並びに予算案が承認されました。今年もまた、楽しい森作りを目指して活動しましょう。

◆(株)トリから「夕張しあわせの桜ともみじ」記念植樹キャンペーンの支援要請を受け、参加を決定しました。日頃、当協会への助成金支援を頂いて下りますし、夕張市再起支援とします。植樹には個々人のネームプレートが貼り付けら、5年後の育成記念行事も計画されています。参加しましょう。

日程：平成19年5月25日、マイカー5台分乗・20名程度の参加を予定しています。(作業は1時間程度)

マイカー提供者・植樹参加者を募集しています。(西野・高野まで)

集合：新札幌駅前集合(野幌国有林作業時の集合場所) 7:30(8:00に出発します)

会場：夕張市・「花とシネマのドリームランド」特設会場。(石炭歴史村を目指す道路両側にのぼりと標識が完備。)

■活動履歴

活動日	行事	参加人数	活動内容
5/18(金)	りんご園	中止	雨天
5/17(木)	澄川	14	植樹、
5/16(水)	有明第二	11	草刈、巣箱修理・架けかえ、
5/15(火)	リンゴ園・澄川	13	摘花、ホダ木・キノコ植菌、
5/14(月)	幹事会	10	5月・6月作業確認、
5/11(金)	りんご園	11	摘花、
5/10(木)	野幌	11	活着調査、
5/9(水)	神宮／澄川	13	イチイ移植・ホダ木・キノコ植菌、
5/8(火)	澄川	19	キノコ植菌、
5/1(火)	支笏湖・澄川	15	復興の森根踏み、キノコ植菌、
4/28(木)	澄川	15	キノコ植菌、巣箱メンテ・生息調査
4/24(火)	木工	11	
4/23(月)	総会	31	リンケージプラザ

■ひとこま

◆ 澄川の鳥達

札幌の里山ともいべき澄川都市環境林は 25 ㍊ですが、隣接する森林がほぼ同じ林相なのでこれらも含めると広大な森林の一部なのです。道路やゴルフ場で一部分断された場所がありますが、鳥達にとっては何らの障害にもなりません。ですから支笏・洞爺国立公園の森林につながっているのですから、鳥の種類が多いことも頷けるのです。2002 年からの活動期間中に確認した鳥を列挙してみますと以下ようになります。(五十音順)

アオサギ、アオジ、アカゲラ、ウグイス、エゾフクロウ、オオタカ、オオルリ、カワラヒワ、キセキレイ、キビタキ、クマゲラ、コガラ、コゲラ、シジュウガラ、スズメ、センダイムシクイ、ニュウナイスズメ、ハシブトガラ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒガラ、ヒヨドリ、メジロ、ヤマガラ、ヤマセミ、

これらのうち本来水辺の鳥であるアオサギ、キセキレイ、ヤマセミ、カモ類は水溜りで早春に繁殖するエゾゾアカガエル、アマガエルおよびその卵やオタマジャクシを狩りにやってくるようです。オオタカは小鳥達を狩るので出没も頷けます。樹齢の若い澄川の森林にはクマゲラやエゾフクロウが現れたことは記録しておきたいことです。澄川では珍種といえるヤマセミ、キセキレイ、オオルリを写真でご覧ください。(高野)

